



TE Connectivity

2024 インダストリアル テクノロジー インデックス

日本版概要

本調査について

TE Connectivity 『インダストリアル・テクノロジー・インデックス』は、第三者機関へ委託した独自調査報告書です。ワイヤレス技術、エネルギーソリューションなど、業界の発展を推進するイノベーション文化を調査しています。

本調査は米国、中国、ドイツ、インド、日本の1,000人のエンジニアとエグゼクティブを対象にオンラインで実施しました。重要なイノベーションの課題に企業がどのように対処しているかについて、洞察と知見を提供することを目的としています。



グローバルレポート
全文を見る

© 2024 TE Connectivity. All rights reserved.

TE Connectivity, TE, およびTE connectivity (ロゴ) は、TE Connectivity Ltd.のグループ企業が所有する商標、または使用許可を与えている商標です。
2024年05月発行

日本におけるイノベーションの現状

日本のエンジニアの多くは、イノベーションというものを、全体を変革することではなく、改善を積み重ねることであると捉えています。一方で日本の回答者の大半が、企業にはイノベーションを推進する適切なリソースや社内外の連携体制が構築されていないと回答しています。こうした課題があるにもかかわらず、日本ではイノベーションの目標は実現可能だと考える傾向が強く見られます。

日本 グローバル

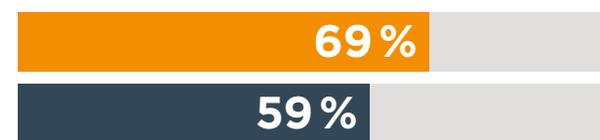
戦略の一致



グローバルの回答者の56%に対して、日本のエンジニアの68%は、**イノベーションというものを、全体を変革することではなく、改善を積み重ねることであると捉えている。**



グローバルの回答者の59%に対して、日本の回答者の69%は、**企業のイノベーションの目標設定が現実的であると考えている。**



リソースとコラボレーション



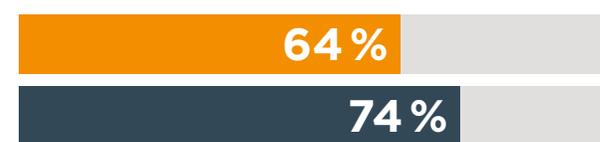
グローバルの回答者の84%に対して、日本の回答者の76%は、**製品、プロセス、ビジネスモデルを改善できるリソースがあると同意している。**



グローバルの回答者の76%に対して、日本の回答者の68%は、**企業内コラボレーションが頻繁に行われていると回答している。**



グローバルの回答者の74%に対して、日本の回答者の64%は、**イノベーションを起こす社内専門チームまたは特別チームが数多く存在すると回答している。**





AI の活用



グローバルの回答者の86%に対して、日本の回答者の74%は、今後3年以内に企業がAIを実用化できることに少なくとも「中程度」の自信を持っている。



グローバルの回答者の81%に対して、日本のエンジニアの73%は、企業へのAI導入に前向きであると同意している。



AI に対する懸念



グローバルの回答者の21%に対して、日本の回答者の28%は、効果的にAIを導入する上での課題として、AIの意思決定に対する信頼性の欠如であると回答している。



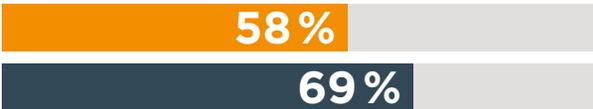
グローバルの回答者の19%に対して、日本の回答者の25%は、AIの投資回収効果は不確実性であると認識している。



持続可能性に関する意識格差



グローバルの回答者の69%に対して、日本の回答者の58%は、持続可能性に対する自社の取り組みが本物であると捉えている。



グローバルの回答者の7%に対して、日本の回答者の14%は、持続可能性が企業文化に根付いていないと回答している。



持続可能性目標の達成



グローバルの回答者の8%に対して、日本の回答者の13%は、従業員が達成すべき持続可能性目標を設定していない企業で勤務している。



グローバルの回答者の9%に対して、日本の回答者の20%は、持続可能性の目標達成のための各種リソースが不十分であると感じている。



AIの優位性

日本では、グローバル企業と比較して、企業の人工知能 (AI) 導入に楽観的ではありません。

日本の回答者は、今後数年間の企業による効果的なAI運用に懐疑的な上、AIによる意思決定の強化が投資効果につながるかどうかに懸念を強めています。

持続可能性の必然性

日本の回答者は、グローバルの回答者と比較して、持続可能性を推進していく予算があるにもかかわらず、持続可能性目標を設定していない企業で働いている可能性が高い状況です。

その結果、持続可能性が企業文化に根付いていると感じていたり、企業が持続可能性に真剣に取り組んでいると見ている日本の回答者は少なくなっています。





イノベーションの現状

人工知能(AI)と持続可能性の波は、テクノロジー業界の再形成を促し、将来のイノベーションのための新たなターゲットを定めています。本調査から、企業は自社のAIと持続可能性の目標達成に対して自信を持っていることがわかりました。エンジニアとエグゼクティブは共に、「製品イノベーション」と「社内の持続可能性の目標」を、「財務目標」よりも重視しています。

■ エンジニア ■ エグゼクティブ

優先事項

製品イノベーション



54%

55%

持続可能性



46%

46%

AI の導入



38%

39%

財務



38%

39%

DEI(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン) 目標



24%

20%

TE Connectivity

2024 インダストリアル テクノロジー インデックス

調査概要

本調査について

TE Connectivity 『インダストリアル・テクノロジー・インデックス』は、第三者機関へ委託した独自調査報告書です。ワイヤレス技術、エネルギーソリューションなど、業界の発展を推進するイノベーション文化を調査しています。

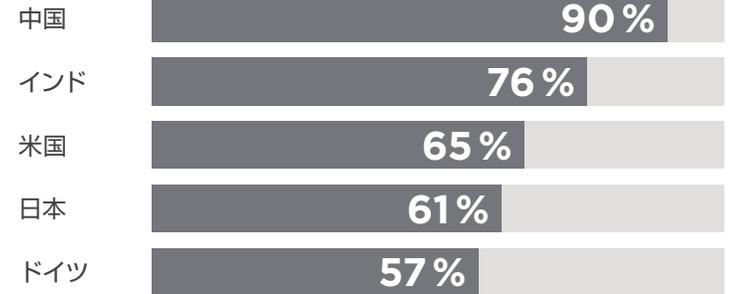
本調査は米国、中国、ドイツ、インド、日本の1,000人のエンジニアとエグゼクティブを対象にオンラインで実施しました。重要なイノベーションの課題に企業がどのように対処しているかについて、洞察と知見を提供することを目的としています。

AI の優位性の獲得

AI はイノベーションに変革をもたらします。企業は、AIを活用することによるリスクも理解していますが、AI にビジネスチャンスを見出しています。こうした投資の効果を最大化するために、企業はAI導入のための明確な戦略を策定する必要があります。

AI導入におけるエンジニアとエグゼクティブの役割と責任の調整や、社内のAIスキルを高めるための的確なトレーニングとスキルアッププログラムなどが成功につながる戦略となります。

AI 導入への自信



AI 関連スキルの価値



74%

のエグゼクティブは AI 導入の推進は エンジニアの役目であると考えている。



68%

のエンジニアは より明確なAI導入計画をエグゼクティブが打ち出すべきであると考えている。

成功の鍵はトレーニング

86%

のエグゼクティブは、AI に関する継続的なトレーニングやスキルアップがエンジニアにとって必須であると考えている。

21%

のエンジニアは、AI に関するトレーニング不足が企業への効果的なAI導入を難しくしていると考えている。



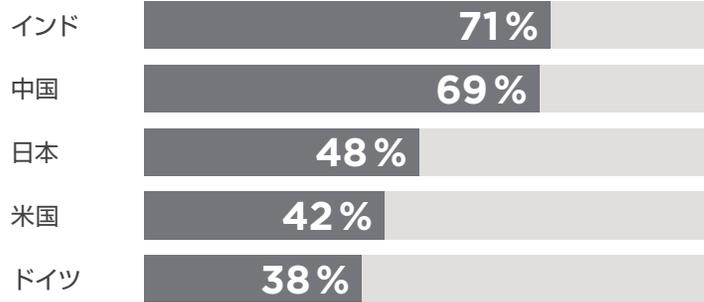
持続可能性の必然性

テクノロジー企業は、持続可能性に配慮して事業を推進し、それを将来の成功へと導く道筋として認識しています。エンジニアはこれらの事業目標を共有するだけでなく、個人でも持続可能性を受け入れています。エンジニアは気候変動などの持続可能性の問題に対する取り組みに情熱を注ぎ、企業が戦略とバリューチェーン全体に持続可能性を浸透させていくことを期待しています。目標達成に苦戦していたり、持続可能性の優先度が低い企業は、人材の獲得や維持において不利な立場に置かれる可能性があります。

イノベーションの未来

AIと持続可能性を取り込んだイノベーションは、今後数年でテクノロジー業界を変革し、社会を再構築していくでしょう。このイノベーションを推進するエンジニアたちは、この2つのテーマに全力で取り組んでいます。成功するテクノロジー企業は、この情熱を引き出し、エンジニアが必要とする戦略的方向性とサポートを提供します。エグゼクティブとエンジニアが協力することで、将来のビジョンと進むべき方向を明確にすることができます。

持続可能性が最も重視されている国はどこか？



持続可能性目標を達成する上で、どのような課題に直面しているか？



エグゼクティブ
69%

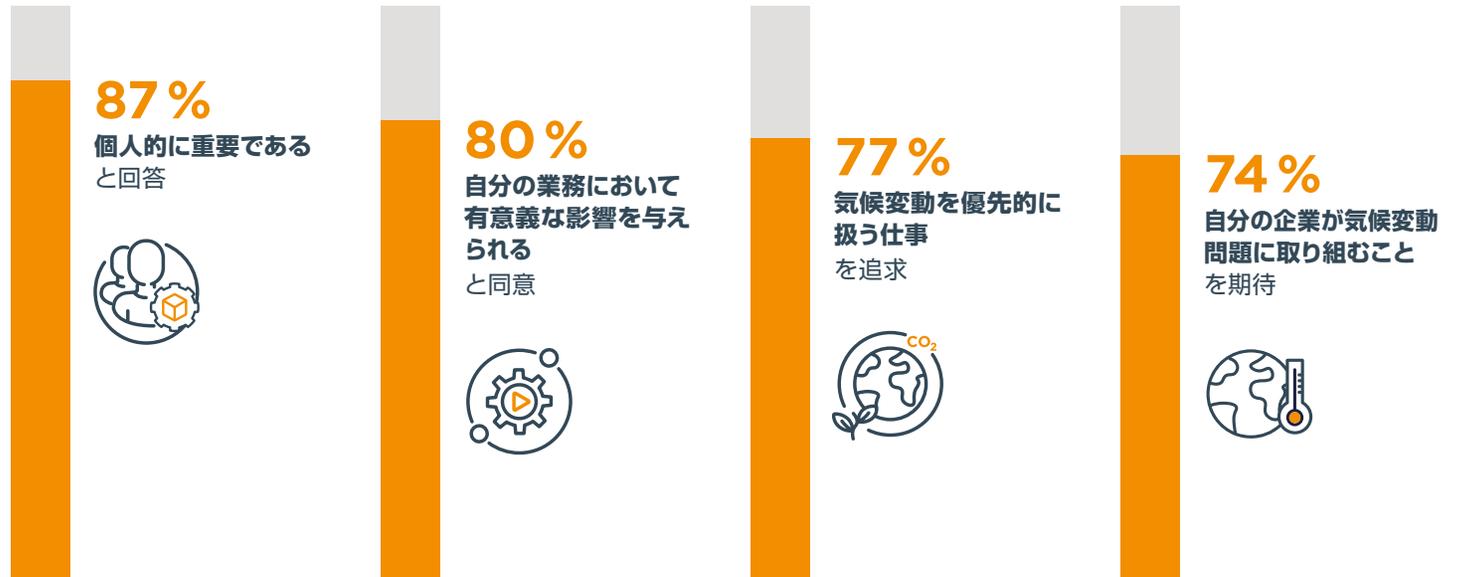
エンジニアのイノベーション能力の欠如。



エンジニア
72%

経営層から明確な方向性が示されないこと。

気候変動との闘いに参加したいエンジニアたち



グローバルレポート
全文を見る

© 2024 TE Connectivity. All rights reserved.
TE Connectivity, TE, および TE connectivity (ロゴ) は、TE Connectivity Ltd. のグループ企業が所有する商標、または使用許諾を与えている商標です。
2024年05月発行